

## 日本心理学会第 78 回大会自主企画シンポジウム 「嗜好品研究の最前線一人はなぜ嗜好品を嗜むのか」

日本心理学会第 78 回大会にて、自主企画シンポジウム「嗜好品研究の最前線一人はなぜ嗜好品を嗜むのか」が、平成 26 年 9 月 10 日（水）、同志社大学今出川キャンパス良心館で開催されました。

シンポジウムでは、嗜好品を対象とした研究（薬理学、社会学、心理学）が紹介され、今後の嗜好品に関する研究を行っていくうえでの方向性や発展的研究の可能性、今後の課題について、多数の参加者ととも議論が行われました。

シンポジウムは以下の方々（敬称略）にご協力を頂き、実施されました。

企画代表者：横光健吾（公益財団法人たばこ総合研究センター）

司会者：金井嘉宏（東北学院大学）

話題提供者：中谷素之（名古屋大学）

「動機づけ心理学からみた嗜好品研究の試み」

藤本憲一（武庫川女子大学）

『関与シールド』としての嗜好品」

廣中直行（独立行政法人科学技術振興機構）

「嗜好と嗜癖の間」

横光健吾（公益財団法人たばこ総合研究センター）

「嗜好品摂取によって獲得できる心理学的効果」

指定討論者：坂野雄二（北海道医療大学）

杉浦義典（広島大学）



TASC では、たばこを始めとする嗜好品等を手がかりとした人文社会・社会科学等の研究を実施しています。シンポジウムの開催等、学会活動や研究公開の実施を通じて、嗜好品に関する心理学研究の更なる振興を図ってまいります。